

## 第6回 VGB-TENPES 技術交流会議および国際シンポジウムについて

火力原子力発電技術協会は、VGB PowerTech(欧州発電技術協会)と平成18年8月に技術交流覚書(MOU)を締結し、VGB Power Techと火力原子力発電技術協会の相互の定期イベントや会議に参加することを通じ、発電プラント運営、設備保守や新技術に関する共通の関心事項についての情報交換などを実施しており、その活動は、今回で6回目を数えます。

VGB PowerTechからはクリステンセン専務理事、パウアー火力部門長をはじめドイツ、フランス、イタリア、オーストリア等の電力関係者合計10名が来日。

2月6日(月)~7日(火)にかけて、第6回技術交流会議を実施。また、2月8日(水)には今年が初めての取り組みとなる国際シンポジウムを開催しました。2月9日(木)~10日(金)は東日本大震災で被害を受けた、東北電力(株)の原町火力発電所、仙台火力発電所を視察しました。

### <2月6日~7日> 第6回技術交流会議翻訳

技術交流会議は2日間にかけて実施。

6日は、700℃級発電設備に関する技術やボイラ材料について意見交換を実施。

また、7日は、再生可能エネルギーの導入状況やそれに伴う火力発電所の運用方法、Flexibilityの必要性について意見交換を行うとともに、日本より震災後の日本の状況と火力・原子力発電設備の復旧対応についての説明を行った。



### <2月8日> 国際シンポジウム

8日は、「欧州と日本におけるエネルギーの現状と将来について」と題した国際シンポジウムを実施。

午前中は、地球環境産業技術研究機構(RITE)の山地憲治 理事・研究所長に、「東日本大震災以降の日本のエネルギー政策について」ご講演いただき、その後 VGB Power Tech のパウアー火力部門長に「ヨーロッパにおける電力セクターの現状と将来について」ご講演いただきました。

午後からは、電力研究国際協力機構(IERE)の佐藤幹夫 事務局長に進行役を務めていただき、

パネルディスカッションを実施。日本からは、東京大学 関村直人教授、金子 祥三教授、関西電力(株) 樋口幸茂火力事業本部副事業本部長に、VGB Power Techからは、クリステンセン専務理事、パワー火力部門長、フランス EDF の Dr. ジジエールにパネリストとしてご参加いただき、欧州と日本におけるエネルギーの現状と将来についてディスカッションを行った。

欧州からは再生可能エネルギーの普及が進んだ結果、電力系統への影響が課題となっているとの指摘があり、日本においても非常に参考となるシンポジウムとなった。

当日の来場者数は約160名であった。

なお、詳細については、協会誌「火力原子力発電」の5月号に掲載しますのでご覧ください。



### <2月9日～10日> 原町火力発電所・仙台火力発電所の視察

VGB Power Techは、9日に原町火力発電所を、10日に仙台火力発電所を視察。VGBからは、津波の被害程度や津波が来襲したときの避難の状況、各種設備の健全性などについて質問があった。また、仙台火力発電所は、8日に営業運転を再開したところであり、震災後、所員一丸となって復旧作業にあたり、運転を再開したことにVGB関係者から驚きの声が聞かれた。

